The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	マエとマエニのちがいについて
Author(s)	岩崎, 卓
Citation	日本語・日本文化. 1999, 25, p. 23-45
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/7238
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

＜研究論文＞

マエとマエニのちがいについて

岩崎　卓

1．はじめに

時を表す従属節のうち、マエ節とアト節というのがある。マエ節については、格助詞ニがつきマエニという形をとる場合と、何もつかないマエという形をとる場合があり、あるいはそれぞれ係助詞ハをつけてマエニハ、マエハという形をとる場合もある。アト節については、格助詞ニあるいはデがつきアトニ、アトデという形をとる場合と、何もつかないアトという形をとる場合があり、マエ節の場合と同様、係助詞ハをつけたアトニハ、アトデハ、アトハという形をとる場合もある。同じく時を表す従属節であるマデとマデニについては明確な使い分けがあり、その使い分けの知識はもはや常識になっているし、トキ、トキニ、トキハの使い分けについては、寺村（1983）の有名な研究がある。しかし、マエ節、アト節についても上記のような格助詞あるいは係助詞のつくつかないで使い分けが問題になるはずにもかかわらず、従来その使い分けについてはほとんど顧みられることがなかった。日本語教育あるいは日本語学の研究においても、マエ（ニ）あるいはアト（デ）というように表記されることが多く、それぞれ格助詞ニとデは随意的（optional）と考えられることが多かったのではないか。しかし果たして本当にそれらは随意的なのであろうか。本稿では、その疑問を念頭に入れつつ、マエ節、アト節のうちのマエ節について、それぞれ格助詞、係助詞のつく場合、つかない場合の使い分けについて考察する。アト節に関しては、紙幅の関係上、稿を改めて考察することにする[1)]。

2．先行研究

アト節類に関しては久野（1973）に、「～してから」と「～したあと」の違い

を考察したものがあり、その中でアト節、アトデ節、アトニ節の使い分けにも言及がある。しかしマエ節類については、先行研究がほとんどない。工藤（1995）と、益岡（1995）に少し記述があるのみである。

まず、工藤（1995）をみる。工藤は「時間の従属複文」という章題からわかるように、トキ（ニ）、アイダ（ニ）、マエ（ニ）、アト（デ）、マデ（ニ）、カラの節における、テンス・アスペクトの体系を記述しようとしたものであり、本稿で考察するようなマエとマエニの使い分けなどを考察対象にしたものではない。しかし、それぞれ格助詞のつく、つかないによって、主節[2)]の述語のアスペクト的な意味のタイプに違いがあることを記述している。本稿で問題にするマエとマエニ、および別稿で考察したアトとアトデについては、以下のような指摘がある。

指摘　1．

マエ、アトなど、「ニ」「デ」がないもの

主節の述語：運動動詞・完成相、運動動詞・継続相、存在動詞、形容詞、名詞述語

マエニ、アトデなど、「ニ」「デ」があるもの

主節の述語：運動動詞・完成相

指摘　2．

マエニ、アトデなどが、シテイル（運動動詞継続相）と共起している場合は、そのシテイルはパーフェクトになる。

指摘1はつまり、主節の述語が、マエニの場合は動作性のものに限るが、マエの場合は状態性のものも、動作性のものも来るということである。以下の例は工藤（1995）P.232からの引用である。「痛くなった」というのは動作性の述語であり、この場合はマエニが適格であるが、「痛かった」というのは状態性の述語で、マエニでは不適格になるという。

（1）　宿に着く前にお腹が<u>痛くなった</u>。

（2）＊宿に着く前にお腹が<u>痛かった</u>。

指摘2は指摘1と関連しているが、これについては、以下の例を見られたい。マエニ節の文で、主節の動詞がテイル形であるが、このテイル形はパーフェクト

の解釈になることを確認されたい。

（3）釈放後の今村が初めて仙台へ行ったとき、彼を出迎えた人々の中に、戦中のラバウルで徒兵を勤めた後藤金哉の嬉しさを包みかねた笑顔もあった。後藤は駅に出迎えに行く前に、今村家の墓所を入念に掃除していた。（工藤 1995, PP.232-233 より。下線は筆者による）

しかし、工藤のこれらの指摘は、大方当たっているものの、わずかではあるが、いくつか実例で反例が見つかる。

（4）「処刑前」といわれるテレビの映像を見ると、医者がチャウシェスク氏の血圧をはかっている。殺す前に血圧検査が必要なものだろうか。（朝日新聞 89／12／27）

（5）インフレが独裁政権のように猛威を振るわないよう、先手を打とうとする日銀の意欲を評価したいが、決定にいたる前に日銀と大蔵省の間で意見対立があり、金融市場に無用の混乱を招いたのは残念だった。（朝日新聞 89／12／26）

（6）「(略) もっともここへ来る前に魚屋の二階に居候してたんで……」（フケン）

（7）朝鮮墓地とぼくたちは呼んでいたが、本当は町の焼場がもっと山の上の方に移転する前に営業していた跡なのだ。（イツカキテキヲ）

（4）（5）では主節の述語が「必要（だ）」「あり（あった）」という状態性述語であるし、（6）（7）では、主節の述語が「居候していた」「営業していた」というようにテイタ形であるが、これらはパーフェクトの読みではなく、過去における動作継続の読みが可能であろう。つまり、これらも主節の述語が状態性のものであるが、マエニとなっている例である。また、工藤があげている（2）の例について、これは次に紹介する益岡（1995）の考察と関係することであるが、マエ節に焦点を置くような解釈をすれば、マエニ節でも適格になると思われる。

（2）＊宿に着く前にお腹が痛かった。

（8）　宿に着いてからではなく、宿に着く前に（もう）お腹が痛かった。

以上のことから、工藤（1995）のマエニの場合は主節が動作性述語の場合に限るという指摘は、維持できないと本稿では考える。

益岡（1995）は、寺村（1983）の「ＰトキニＱ」という表現形式についての「Ｑという事態の発生が既知の情報であって、それがいつ起こったのかが問題になっている場合に典型的に使われる」という指摘、および「ＰトキＱ」という表現形式についての「まずＰという事態を述べ、次にそれに続いて起こったことを、いわば発見として述べる場合」に適しているという指摘を評価し、その指摘のより広範な従属節への一般化を試みている。その結果、本稿の考察と関係する時間節については、「格助詞を持つ場合には時を特定する格成分として機能し、持たない場合には時を設定する状況成分として機能する」と結論づけている。格成分と状況成分の違いは、前者は事態を叙述する部分の内部要素であり、後者は外部要素であるとして、前者は焦点化されうるが、後者は焦点化されないことを指摘している。格成分の焦点化および状況成分の非焦点化については、おもに２つの現象をあげている。ひとつは焦点化の解釈の現象である（益岡 1995, PP.151-152）。

（９）由紀子に電話したあとでこの手紙を書いたのだ。

（10）由紀子に電話したあとこの手紙を書いたのだ。

「この手紙を書いたのは、由紀子に電話したあとだ」というような、アトに焦点を置く解釈ができるのは、格助詞がついたアトデである（９）であって、格助詞のついてない（10）ではそのような解釈ができない。

いまひとつは、焦点要素としての疑問語が現れるか、現れないかの現象である。以下の例は益岡（1995）P.160であげられている例文から。

（11） 誰から電話があったあとでこの手紙を書いたのですか。

（12）？誰から電話があったあとこの手紙を書いたのですか。

格助詞がついたアトデである（11）では、「誰」という疑問語が節内に現れうる。一方、格助詞のないアトの場合は、（12）の例に示されるとおり、疑問語が節内に現れにくいとしている。

益岡（1995）の指摘は基本的に正しいものと思われる。しかし、益岡の指摘だけで、たとえばマエ節とマエニ節の使い分けの説明がすべてなされたわけではない。以下、できるだけ実例にあたりながら、マエ節とマエニ節の使い分けについて考察していくことにする。

3．考察

3．1　マエ節

まず、何もつかない形式であるマエ節からみていく。まず、実例をあげる。〜〜をひいた主節の述語にも注目されたい。

(13) その底には、東京を出る前、あちら、こちらの薬屋で買い集めた睡眠薬の箱が数ケ、入っているはずです。(サレド)

(14) 第2次大戦の始まるまえ、当時の国際連盟がアインシュタインとフロイトを招いて、戦争と平和の問題を討議したことがある。
(朝日新聞 89／03／14)

(15) ラトビアが独立宣言に踏み切る前、その最高幹部と会ったゴルバチョフ大統領は、連邦にとどまるなら、国家連合（コンフェデレーション）に移行するなかで特別の地位を与えてもいい、と述べたという。だが、そうした代案をもってしても、独立への動きを思いとどまらせることはできなかった。　(朝日新聞 90／05／10)

(16)「何でも、ソ連書記長の国連行きは28年ぶりですって？」「そう、きみの生まれる前、東西両陣営の対立がはげしかった60年の秋に、フルシチョフ氏が乗りこんだ。すごかったな」「とげとげしかったんですか」　(朝日新聞　88／12／09)

(17) しきいをまたぐ前、一本道で見透しになった後を振り返ったが、遠目での表情はわからず、純白のワンピースが眩しかった。　(カクシュウ)

(18) 結婚を承諾する前、雅子さんは外務省を十日以上欠勤した。気持ちの整理をするために、静かに考える時間が必要だったのだろうか。関係者によると、このころ皇太子さまは雅子さん宅にひんぱんに電話をかけ、思いを伝えられたという。　(朝日新聞 93／01／07)

以上のマエ節の例は、ニュアンスの違いは生じるが、マエニに置き換え可能であると思われる。これらマエ節の例の主節にくる文のタイプに注目すると、すべていわゆる「平叙文」であることがわかる。この点は、次節で見ていくことであるが、マエニ節の場合と異なる点であり、注目すべきことである。

3．2　マエニ節

次にマエニ節をみる。以下では特に、マエニ節でないとだめな場合、すなわちマエニ節ならいいが、それをマエ節に置き換えることができない場合に注目する。それがどのような場合かということを見ていくことにより、マエ節とマエニ節のちがいに迫ることにする。

マエ節について、すべて主節にくる文のタイプが、平叙文であることをみた。マエニ節の場合も平叙文が主節にくるものがある。そしてこれらの例では、マエニ節をマエ節に変えることができる。

(19) 豚は一年ごとに場所を移して飼わなければならない、と北京に行く前に父親が教えてくれた。　（ユメノカベ）

(20) 息を引きとる前に、彼は「苦しい、お母さん」といった。　（トクヤマ）

(21) 私はこの雑居房で芝居を始める前に、丸目大尉と《コロビクレコード新譜発表会》というのをやった。　（プレオー）

(22) 風呂に入る前に、さっきの番頭が挨拶に来た。　（トクヤマ）

それでは、他のタイプの文が主節にくる場合、どうなるか見てみる。

・命令･勧誘

(23)「インフレは独裁政権と同様、それが力をもつ前に封じ込めろ」というのが、金融政策の要諦だそうだ。　（朝日新聞 89／12／26）

(24)「（深呼吸して）久し振りだわ……東京……ねえ、嫌なことする前にうんとおいしいものでも食べましょうよ、私の貯金全部おろして持って来ちゃった……」　（ブンガク）

(25) 娘たちの一生を狂わせてしまう前に、渡を隠してしまおうと主人は言いました。わたしは、主人や娘を捨てて渡を取りました。（ヤマアイ）

・意志

(26)「どうせテメエらはベトナムで死ぬんだ。戦争で地獄に落ちる前に、俺たちの歌でテメエらノータリンを天国に行かせてやるぜ！」　（Aサイン）

(27)「ええ、喧嘩が自慢ですし、本当にやりかねないようすでした、あっしは相手が匕首を持っているからと、どうにか思い止まらせたんで

すが、そのまま万吉が手を束ねているかどうかはわかりません、それなら万吉のやるまえに自分がやろうと思ったんです」　（さぶ）

・希望

(28)「結婚とか、そんなこと考える前に、敏夫さんとどうしても、もう一度会いたくて…。」　（ヤマアイ）

(29)　―朝鮮へかえる前に会っておきたくて来た。　（ワルイナカマ）

(30)「お、お願いだ、殺す前に歌を一曲歌わせてほしい」　（ブンガク）

(31)　少しずつではあるが、わが国の企業の中にも外人社員を雇う動きが出ている。わが国の労働市場の閉鎖性が国際世論のやり玉にあがる前に、門戸開放の是非や限度などについて国民的な合意を固めておきたい。　（朝日新聞 86／10／25）

(32)　欧米のような深刻な事態になる前に、コカインも含め、麻薬問題について、いくつかの点を指摘しておきたいと思う。

（朝日新聞 90／05／06）

以上の命令・勧誘[3]、意志、希望の文が主節に来る場合は、マエニ節をマエ節に変えると、どこか座りが悪い[4]。質問の文が主節に来る場合はどうであろうか。実例がなかったので、作例で確かめると、マエ節でもマエニ節でもよさそうである。

(33)　日本に来る｛まえ／まえに｝日本語を勉強しましたか？　（質問）

平叙文が主節に来る場合では、すべてがマエニ節でもマエ節でもよいかというと、そういうわけではなさそうである。まず、注目すべきは、「～べきだ」「～なければならない」のような当為表現が主節に来る場合は、どうもマエ節では座りが悪い。

(34)　10年前、見かねた公取委が競争原理導入のため再販制廃止を打ち出したが、業界側の抵抗もあってごく一部の手直しにとどまった。いまも、廃止論再燃を警戒する声が業界の一部にある。だが、自転車操業といわれるほど状況は深刻である。言論機関としての出版界は、公権力に強制される前に、自ら改善策を講ずべきだと考える。

（朝日新聞 88／10／27）

(35) 7月のロンドン・サミットでは、ソ連の改革路線を支持しながらも、金融支援など本格的なテコ入れにまで踏み込むことは手控えた。われわれは、納得できる経済再建策が示されるまえに、むやみに資金援助をすべきだとは思っていない。（朝日新聞 91／08／23）

(36) いつか本を売る前に一度全部本を調べなければ、と云った時も彼は、そんなことをするんですか、と云って同じような顔をしたことがあった。（ホンノハナシ）

(37) 新しい国際通信会社、いわゆる第2ＫＤＤの設立問題がこじれている。日本の政策変更を迫る米英両国との関係がこれ以上悪くなる前に、早く手を打たねばならない。（朝日新聞 87／04／05）

(38)「（英語）送還される前に私、タイに行かないといけないんです。兄は脱走兵だから……」（ワレニ）

認識的モダリティの形式がついた場合はどうであろうか。結論から言えば、マエ節でもマエニ節でも適格なようである。実例ではほとんど見つけられなかったが、マエニモという形式で一例あった。これをマエ節に変えても適格である。以下、作例であるが、同様に、マエ節でもマエニ節でも適格であることを確認されたい。

(39)「もし、君の言うようなことであれば、我々が帰省する前にも、似たようなことがあったろう。父さんに訊いてみる。すべてはそれからだ」老いた女性が一人、ワゴンを押しながら家の前の道に現れた。（セキバクコウヤ）

(40) 彼は大阪に行く｛まえ／まえに｝京都に行った（の）だろう。

(41) 彼は大阪に行く｛まえ／まえに｝京都に行ったはずだ。

(42) 彼は大阪に行く｛まえ／まえに｝京都に行ったようだ。

(43) 彼は大阪に行く｛まえ／まえに｝京都に行ったらしい。

(44) 彼は大阪に行く｛まえ／まえに｝京都に行ったにちがいない。

(45) 彼は大阪に行く｛まえ／まえに｝京都に行ったかもしれない。

主節に平叙文が来る場合でも、まだマエ節では不適切になることがある。前にみたマエ節の実例の述語のテンスに注目すると、述語がタ形で過去を表すか、

「～ことがある」のように状態性の述語が来て現在を表しているものばかりであった。それでは主節の述語がテンス的に未来になるものである場合はどうか。主節の述語がテンス的に未来になるものの実例は少なかったが、それらをマエにかえるとどうも座りが悪い。それぞれ確認されたい。

(46) ソウルで第3回の南北首相会談がおこなわれる前に、日本と北朝鮮の国交正常化をめぐる政府間交渉が始まる予定だ。

（朝日新聞 90／10／20）

(47) 一連の定員増は、第2次ベビーブームによる受験人口の急増対策として進められてきた。私立大学もふくめ、67年度までの7年間に定員を8万6000人拡大する、との計画である。そして、最終年度がくる前に目標を達成できる見通しになったので来春の増加幅を制限した、と文部省は説明する。（朝日新聞 88／09／06）

(48) しかし、ブッシュ大統領はそうした道を選ばず、「ソ連に最恵国待遇を与える前に、対ソ貿易制限を撤廃する用意がある」とまで述べた。ペレストロイカを全面支援するという大統領の意欲の表れだろう。

（朝日新聞 89／12／05）

作例で試してみても同じである。

(49) 急行が出町柳に着く {??まえ／まえに}、特急が先に到着します。

(50) 総理は、中国を訪問する {??まえ／まえに}、韓国を訪問する。

(51) 来月、教育実習をする {??まえ／まえに}、ガイダンスがある。

以上、マエ節では不適切でマエニ節にしなければならない場合をまとめると、次のようになる。

①主節に命令・勧誘、意志、希望の文が来る場合

②主節に平叙文が来るときでも、それが当為表現の場合

③主節に平叙文が来て、それが当為表現でないときでも、述語がル形で未来を表す場合

これは、どういうことであろうか。少し考えてみると、この①②③の場合には、ひとつの共通点があるのがわかるであろう。それは、主節に表される出来事が発話時において、まだ未実現であるということである。③の述語がル形でテンス的

に未来を表すというのには説明を要しないであろう。命令･勧誘、意志、希望の文、（平叙文のうちの）当為表現が来る場合については、それぞれ「行け」「行きたい」「行くべきだ」という文で言えば、すべて「行く」という出来事はまだ未実現であるということである[5)]。主節に表される出来事が発話時未実現であるとはどういうことか。「Ｐマエニ Q」では、Ｐという事態はQの後に生じるのであるが、Qが発話時未実現であれば、それより後に生じるＰ、すなわちマエニ節事態も発話時未実現であることになる。そして、この発話時未実現の事態がマエニ節に来る場合、それをマエ節に変えることができないと言えるのである。

主節に表される事態が発話時未実現であるということではなく、マエニ節事態が発話時未実現であることがポイントであることについて、上述のマエ節では不適格でマエニ節でなければならない場合③「主節に平叙文が来て、それが当為表現でないときでも、述語がル形で未来を表す場合」に関して述べよう。③では述語がル形で未来を表す場合としたが、実はテイル形で現在を表す場合も同様にマエ節では不適格で、マエニ節にしなければならない。

(52)（これから試合に出るという人を見て）

あいつ、試合に出る｛??前／前に｝あんなところで昼寝しているぞ。

「あんなところで昼寝している」という主節事態は発話時既実現であるが、「試合に出る」というマエニ節事態は発話時未実現である。なお「～したことがある」というのが主節に来る場合、主節述語は「ある」であるから、現在を表すとしたが、マエニ節事態の既実現・未実現に関して、テイル形で現在を表す場合とは事情が異なる。「～したことがある」というのが主節に来る場合は、マエニをマエにかえても適格であったが、マエニ節事態が既実現であるのは言を待たないであろう。

よって、主節事態ではなく、マエニ節事態が発話時未実現であれば、それをマエ節にかえることができないことは明らかになった。なお、上述のマエでは不適格でマエニとしなければならない場合②「主節に平叙文が来るときでも、それが当為表現の場合」に関して、主節に当為表現が来ていても、それがタ形で過去の場合は、マエニ節事態は既実現のものであり、マエ節に変えることができると予想される。そしてその予想どおり、以下の例をマエ節に変えることができる。

（53）海人は港へ帰る前に、冷えこんだ体を充分にあたためておかなければならなかった。　（アマフネ）

（54）だがそうもどかしく思いながら、彼ら生徒の私生活に踏入る前に、北原は自分の私生活に相当悩まなければならなかった。　（トウハン）

マエニ節とちがって、マエ節には発話時未実現事態が来ることができないということの証左となる事実をもうひとつあげよう。次の表現はよくある表現である。上であげた、(31)（32）（37）もこのタイプの文であろう。主節事態の生起によって、マエニ節事態の生起を防ごう、および実際に防いだというものである。これらは「～ならないうちに」と言い替えができる[6]。

（55）事が公になるまえに、事態を処理しておいた。

しかし（31）（32）（37）と違ってこの文は、上述のマエ節では不適切でマエニ節にしなければならない場合①②③のどれにも該当しないが、マエ節では不適格になる。

（56）??事が公になるまえ、事態を処理しておいた。

しかしこの場合、「事態を処理しておいた」という主節事態の結果、「事が公になる」というマエニ節事態は起こらなかったのであるが、その点、マエニ節事態は発話時未実現の事態である。よって、マエ節では不適格になるのである。つまり、上述の①②③は、マエニ節事態が発話時未実現である場合であるが、①②③以外でもマエニ節事態が発話時未実現である場合は、やはりマエ節に変えることはできないことから、やはりポイントはマエニ節事態が発話時未実現である場合ということになる[7]。

3．3　事態の重要度の順位をいうマエニ節

マエニ節には、以下のような、主節事態とマエニ節事態の物理的な時間の前後関係を言うよりもむしろ、事態の重要度の順位を前後関係になぞらえていう表現がある。そのひとつには、次のような表現がある。

（57）「カストロはカストロだ。彼はただのマルクス主義者ではない。葉巻を好み、話が好きだ。マルクス主義者である前に、彼はラテン系人物なのだ」　（朝日新聞 93／03／31）

これはよくある表現であるが、マエニ節を「(Pではあるが) PであるよりもむしろQ」のように言い替えができる点、事態の重要度の順位をいう表現であろう。マエニ節には「である」といういわゆる断定の助動詞が来るのが特徴である。この文において、マエニ節事態の「(カストロが) マルクス主義者である」ことは、発話時においてもそうなのであるから、発話時未実現とは言えない。しかし、この文をマエ節に変えることはできない。

(58) ＊(カストロは) マルクス主義者である前、彼はラテン系人物なのだ。

事態の重要度の順位を前後関係になぞらえていう表現のいまひとつは、次のような文である。

(59) 貿易摩擦にからんで、一方、日本側には、米国の財政赤字こそが問題であって、日本たたきをする前にそれをまず正すべきだ、という反発も昨年は強く出て来た。　(朝日新聞 88／01／10)

(60) 今年のノーベル医学生理学賞を受けた利根川進氏の研究は、スイスと米国でなされた。日本人がもらった、京大が生んだと大喜びする前に、こういう研究がなぜ日本の大学・研究所から出ないかを考えるべきだろう。　(朝日新聞 87／12／30)

これらの例では主節には当為表現が来ているが、当為表現だけでなく、命令・勧誘、意志、希望の文も来ると思われる。「(Pするのもよいが) PするよりもむしろQすべき／Qしろ／Qしたい」というように言い替えができる点、先の例とQ同様、事態の重要度の順位をいう表現であるといえる。(59) (60) において、それぞれマエニ節事態「日本たたきをする」「日本人がもらった、京大が生んだと大喜びする」というのは、発話時既実現である[8)]。しかし、これらをマエ節に変えることはできない。

(61) ＊日本たたきをする前それをまず正すべきだ。

(62) ＊日本人がもらった、京大が生んだと大喜びする前、こういう研究がなぜ日本の大学・研究所から出ないかを考えるべきだろう。

これらは前節でみたマエとマエニの違いの結論の反例となるものであるが、本稿で考察対象を、時間の前後関係を表すマエ・マエニ節に限定すると、対象外となるマエニ節ということになる。

3．4　まとめ

以上、まとめると次のようになる。

時間の前後関係を表すマエ・マエニ節について

従属節事態	マエ節	マエニ節
発話時既実現	○	○
発話時未実現	×	○

3．5　「名詞＋マエ」句について

マエ節とマエニ節のちがいについての以上の記述は、「名詞＋マエ」句にもほぼあてはまる。まず、マエ句の実例をあげる。文が平叙文であり、マエ句につく名詞の表す出来事は発話時既実現であることを確認されたい。

(63) 会談の前、両国はジュネーブ会談を「歴史の分水嶺（れい）」「新しい出発点」としたいとの期待を公にしていた。だが、ジュネーブを境に米ソ関係の流れが変わったのかどうかを判断するのはまだ早すぎる。　(朝日新聞 85／11／22)

(64) 総選挙の前、野党各党は審議会に出席して意見を述べるよう要請されたが拒んだ。　(朝日新聞 90／03／25)

(65) ある年の母の日の前、野口さんは初めてその店に行った。　(朝日新聞 88／02／19)

(66) 東京五輪の前、東京に高速道路が開通した。「灰色の路面を車が矢のように走り、夢のハイウエーにふさわしい快適さ」だと当時の記事にはある。　(朝日新聞 88／04／22)

(67) この神の子は、死闘の前、かけに負けて一族と共に森に追われたことがある。　(朝日新聞 88／06／17)

以上のマエ句はマエニ句に置き換えることができる。次のマエニ句は、文のタイプが平叙文であり、マエ句につく名詞の表す出来事は発話時既実現であるが、これらはマエ句に変えることができる。

(68) クリスマスの前に一度母を呼び出したことがある。　(セオイミズ)

(69) ロ事件発覚の前に、当時の田中首相は金脈問題によって退陣した。
（朝日新聞 86／02／08）

次に、文のタイプが命令･勧誘、意志、希望であったり、当為表現であったりなどしてマエ句につく名詞の表す出来事が発話時未実現の場合を見てみる。マエ節は不適格で、マエニ節でなければならなかったのと同様、マエ句では不適格で、マエニ句でなければならないことを確認されたい。

・命令

(70) その意味で、「導入の前に選挙で国民に信を問え」という野党の主張は確かに正論だ。しかし、入り口のところで止まっているだけでいいのだろうか。（朝日新聞 88／01／28）

・意志

(71) ところが昨年8月、自民党は政府に迫って駅舎や広場なら支出できるように方針を転換させた。これに基づいて最近、新青森駅などの着工が決まった。国鉄改革の前に既成事実をつくろうという姿勢が露骨である。（朝日新聞 86／01／26）

・希望

(72) だがわが国としては、できればガットの最終勧告の前に処理しておきたい。（朝日新聞 88／03／08）

・当為表現

(73) はっきり言っておきたい。選ばれる側が自分たちだけの都合で、解散の段取りを設定していくのは納得できない。理由のあいまいな解散は総選挙の意味を矮小（わいしょう）化してしまう。そしてなによりも、選挙の前に違憲定数を是正してもらわねばならない。
（朝日新聞 86／03／03）

・それ以外で名詞の表す事態が発話時未実現の場合

(74) 今回も、2年後に連合体移行を決めただけで、要綱をはじめ財政、地方組織、事務局体制などは「移行準備会」でつめることになった。来年夏の労働界の大会シーズンの前に明らかにされる成案をもとに、各組合で徹底的に論議してもらいたい。（朝日新聞 85／11／16）

（75）そのソ連軍十数万人の撤兵が、１５日始まった。モスクワで今月末、開かれる米ソ首脳会談の前に４分の１が去り、来年２月までには、全員が撤兵する予定である。　（朝日新聞 88／05／16）

（76）あの子供達には戦争の終ったあとを生きてゆく資格と力がある、あの子達のためだけにでも、戦争が本土決戦の前に終ったことを喜ぶべきなのだと節子は思った。　（レクイエム）

（74）（75）は、マエニ句内に「来年夏の」「今月末、開かれる」という、発話時未来であることを示す時の表示により、マエニ句事態が発話時未実現であることがわかるものである。（76）については、われわれは一般的・言語外的知識によって、「本土決戦」が行われなかったことを知っているからとも考えられるが、「戦争」が終わればその一部である「本土決戦」もないという文の意味の論理関係によっても、マエニ句事態は発話時未実現であることがわかるというものである。

なお、マエニ節の場合に対象外とした、事態の重要度の順位を前後関係になぞらえていう表現の場合についても、同様に発話時既実現の事態であってもマエニ句でなければならない。

（77）環境か、経済成長か。ブッシュ大統領は「環境保護に偏ると産業活動がつまずいて経済的打撃に直面しかねない」という見方を示した。そしてCO_2の削減の前に、その経済的影響と温暖化の因果関係をもっと研究する必要がある、と強調した。　（朝日新聞 90／04／22）

４．マエハ節とマエニハ節

本稿はマエ節とマエニ節の使い分けについて主に考察するものであるが、それぞれに係助詞ハがついた形、マエハ節とマエニハ節についても簡単にふれておく。

マエハ節はマエ節をハで取り立てたものであり、マエニハ節はマエニ節をハで取り立てたものであるが、ほぼ「マエ＋ハ」「マエニ＋ハ」という足し算で意味・用法が説明されると思われる。以下にそれぞれに実例をあげる。以下のマエハ節、マエニハ節は、それぞれハを取って、マエ節、マエニ節としてもかまわな

い。それぞれの意味・ニュアンスの違いは、係助詞ハの分の意味のあるなし、つまり係助詞ハのもつ主題あるいは対比の意味のあるなしに還元できると思われる。

・マエハ節

(78) 日本軍が村はずれに進駐する前は、国民党軍がいたのだ。（ユミノカベ）

(79) 再編成の波が高まる前は、元売り会社は13社もあったが、大協、丸善の合併で11社7グループに集約される。　（朝日新聞 85／08／03）

(80) 新幹線に乗る前は、禁煙車にしようと思う。だが、息せき切って駅の窓口にかけつける時は「禁煙車を」というのをすっかり忘れていて、渡されるままの喫煙車の座席券をもってかけこむ。車両に乗った瞬間に、しまった、と思うことが再三ある。　（朝日新聞 87／03／28）

・マエニハ節

(81) 現在は川原輝夫さんら四人の企業組合で、朝鮮陶工の子孫はいない。だが、川原さんは窯に火を入れる前には、必ず裏山の頂上にある朝鮮陶工を祭ったほこらに参拝する。毎年祭礼も開いている。

（AERA 93／05／25）

(82) 別れる前には、あんなに景気をつけてくれた利一伯父さんだって、一度も現われないじゃないか。　（ショウネンノハナシ）

(83)「僕は日本へ来る前にはベルリンにいた。張君は、たとえ革命に追われたにしてもまだ行くところがあるだけ幸福だ。ヨーロッパには妻子とは無論ばらばらになり、しかもゆきどころのない人が、キャンプに何万人ともしれず収容されている……」　（ヒロバ）

マエ節については、それに主題あるいは対比の意味を持たせるとマエハ節にすべてかえることができるが、マエニ節の場合は、それに主題あるいは対比の意味を持たせることができず、マエニハ節にできないものがある。本稿では、マエニ節でマエニハ節にできないものには、次のふたつがあると考える。それぞれマエニハにできない、あるいはしにくいことを確認されたい。

1．事態の重要さの優先順位をいう表現

(84)（＝57）（カストロは）マルクス主義者である前に、彼はラテン系人物

なのだ。

(85)（＝59）貿易摩擦にからんで、一方、日本側には、米国の財政赤字こそが問題であって、日本たたきをする前にそれをまず正すべきだ、という反発も昨年は強く出て来た。　（朝日新聞 88／01／10）

(86)（＝60）今年のノーベル医学生理学賞を受けた利根川進氏の研究は、スイスと米国でなされた。日本人がもらった、京大が生んだと大喜びする前に、こういう研究がなぜ日本の大学・研究所から出ないかを考えるべきだろう。　（朝日新聞 87／12／30）

2．「～ないうちに」に言い替えでき、主節事態の生起によって、マエニ節事態の生起を防いだ、および防ごうというもの。

(87)（＝55）事が公になるまえに、事態を処理しておいた。

(88)（＝31）少しずつではあるが、わが国の企業の中にも外人社員を雇う動きが出ている。わが国の労働市場の閉鎖性が国際世論のやり玉にあがる前に、門戸開放の是非や限度などについて国民的な合意を固めておきたい。　（朝日新聞 86／10／25）

(89)（＝32）欧米のような深刻な事態になる前に、コカインも含め、麻薬問題について、いくつかの点を指摘しておきたいと思う。　（朝日新聞 90／05／06）

(90)（＝37）新しい国際通信会社、いわゆる第２ＫＤＤの設立問題がこじれている。日本の政策変更を迫る米英両国との関係がこれ以上悪くなる前に、早く手を打たねばならない。　（朝日新聞 87／04／05）

5．おわりに

本稿では、従来の研究ではほとんど無視されてきた問題であるマエとマエニの違いについて考察し、一応の結論をみた。ここで、本稿での結論と、益岡（1995）での結論との関係について、若干述べておく。益岡（1995）の結論は、格助詞がついた場合（マエニ）は格成分として焦点化され、格助詞がない場合（マエ）は状況成分として焦点化されないというものであった。一方、本稿での結論は、マエはマエ節事態が発話時既実現のものに限り、マエニ節はマエニ節事態が発話時

未実現でも既実現でもよいというものである。しかし、以下のマエニ節は、マエニ節事態が発話時既実現であるが、マエ節にかえることが困難であろう。

(91) 洗面器に水を汲む前に私はコップに水をいれて口をすすぎました。
（ムメイ）

(92) 仲間が帰る前にすませたかった。　（クサノツルギ）

これらがなぜ、マエニ節でなければ座りが悪いのだろうか。それは、益岡（1995）のいうように、これらの文は意味的にマエニ節に焦点があたるものだから、焦点化されないマエ節では座りが悪いということになるのであろう。意味的にマエニ節に焦点があたるとは、(91) では、「洗面器に水を汲む」というマエニ節事態は、「コップに水を入れる」という主節事態と比べて、前者のほうを後者よりも前に行ったということを強調する解釈がふつう得られること、(92) では、仲間が帰った後ではなく、仲間が帰る前にこそ、「すませたかった」（主節事態）ということが言いたい文であると読みとれることによるものであろう。これはつまり、マエとマエニの違いについて、益岡のいう焦点化の有無の違いがまずあるということであろう。よって、本稿のマエニでなければならない場合というのも、必ず焦点化されなければならない場合ということになり、本稿での結論も結局は益岡のいう焦点化の有無に還元されるのかもしれない。しかし、マエニ節事態が発話時未実現の事態であると、必ずその節は焦点化されるというのは、どのように導き出されるのであろうか。その疑問については今のところわからない。マエニのニは格助詞ニであることは確かであろうが、格助詞ニの性質からそのことを導き出すのは困難であろう。今後の課題とせざるを得ない。

また、工藤（1995）の、主節に状態性述語が来る場合はマエニ節では不適格で、マエ節でなければならないという指摘を、本稿では反例があるとして破棄したが、それでもなお、工藤の指摘があたっている例も多い。これに関しては、主節に状態性述語が来る場合は、必ずマエ節が焦点化されず、マエニ節では不適格になる、つまり益岡（1995）の結論に還元されるべきものと考えるが、主節に状態性述語が来る場合は、なぜマエ節が焦点化されないのかのきちんとした説明が今後の課題となるであろう。

なお、アト節については岩崎（1998）で考察しているが、本稿でのマエとマエ

ニの違いの結論、「マエニ節ではマエニ節事態が発話時未実現のものでも発話時既実現のものでもよいが、マエ節ではマエ節事態が発話時既実現のものに限る」というのは、たとえばアトとアトデの違いに応用することができない。以下の例は、アト節の実例であるが、アト節事態は発話時未実現のものである。

(93)「お姉様の部屋はそのまま空けてありますから、早く本物の人間になって戻って来て下さい」／と弟が言う。／「そして僕たちが死んで森のお墓に入った後、子孫をお願いします」／もう一人の弟が言う。王女は頷いたが、すでに諦めかけている。　（チイサナ）

(94) 次の通常国会で決着をつけるためには、速報値が出たあと、早急に法案をまとめねばならない。　（朝日新聞 85／12／21）

(95) 問題はこれらの地域である。衆院での審議で、政府は、特定地方交通線を除いたローカル線は現状通り運行されると答弁したが、地域の人びとは民営化されたあと、赤字を理由に廃止されていくのではないか、と不安を抱いている。　（朝日新聞 86／11／02）

(96) わが国の産業調整が進むと、例えば繊維のように、不採算部門を撤収したあと、アジア地域からの輸入に頼る分野も出てこよう。　（朝日新聞 87／09／28）

(97) 武「（写真機の後ろで待っていて）おじさん」／写真師「うん?」／武「写真をとったあと、悪いけど、暗くなるまで、そこ（玄関）にいさして貰えんですか？」　（ショウネン）

また、以下の例はアトデ節の実例であるが、アトニ節事態は発話時未実現のものでありながら、アト節に交替可能であると思われる。

(98) 新党さきがけとの関係について、細川氏は記者会見で「まだ正式には婚約していないが、この二、三日のうちに婚約を発表しようとさきがけと話している」と述べた。これに先立ち細川氏は、さきがけの前代議士の応援のため訪れた大分県内での演説で「選挙が終わった後で、正式に結婚式をやりたいと考えている」と述べ、新・新党の考えを明確にした。　（朝日新聞 93／07／01）

(99) ものごとには、筋道というものがある。国鉄改革のすじを１本通し

たあとで、整備新幹線問題にとりかかればよい。

（朝日新聞 86／06／16）

（100）賛否が分かれた「変形労働時間」は、サービス経済化のこれからの世では避けて通れぬことだと思う。だが、それは週40時間にたどりついたあとで考えるべきことだろう。適用の枠拡大で、乱用される懸念も強い。（朝日新聞 87／09／26）

以上で、本稿でのマエとマエニの違いが、例えばアトとアトデの違いには応用できないことが明らかであろう。拙論（1998）を参照されたい。

注

1）拙論（1998）「アト、アトデ、アトニの違いについて」『光華女子大学研究紀要』（第36号）

2）工藤（1995）では「主文」としている。

3）作例でたとえば「寝るまえ、歯をみがきなさい」というのは、主節に命令が来ているが、適格なように思える。これについては後の注8）を参照。

4）実例で例外がひとつだけ見つかった。

（i）いつか、問題を起したら、あなたの方で始末をつける前、必ず私に相談してほしい、私にも考えがあるから、と、深く念を押して置いていたのも忘れたように、あっさり事後報告ですまそうとする叔母に、私はあきらかな不満を見せた。（アサクサ）

5）①「主節に命令・勧誘、意志、希望の文が来る場合」については、関連事項として仁田（1991）の働きかけ、表出の言表事態めあてのモダリティ「待ち望み」を参照されたい。

6）そのような言い替えができればこのタイプというわけではない。

（ii）雨が降るまえに、家に帰った。（→雨が降らないうちに～）

この文では、主節事態の生起によって、マエニ節事態の生起を防いだというものではない。

7）以上の結論をふまえ、注3）での「寝るまえ、歯をみがきなさい」という文の適格性について考え直すと、次のように考えられるのではないか。つまりこの反例と思われる文は、「歯をみがいてから寝るべきだ」というような一般的なことがらとして命令しているのであり、その点マエ節事態は（主節事態とも）一般的な事態として

とらえられ、一回性の出来事としてはとらえられていない、および少なくともそのようなとらえかたは薄いと考えられる。よって一般的な事態としてとらえられると、事態の未実現性も希薄になり、マエ節でも適格になるものと思われる。繰り返し・習慣的な事態の場合にマエ節でも適格になるのは、次のような例からも確かめられる。

(iii) 彼は寝る｛まえ／まえに｝、いつもお祈りをしている。

8）この事態の重要度の順位を前後関係になぞらえていう表現のすべてが、マエニ節事態は発話時既実現というわけではない。次のような発話時未実現の例も考えられるだろう。

(iv)（「今度車を買う」という発言に対して）

「車を買う前に、まず自転車を買え」

参考文献

岩崎卓（1998）「アト、アトデ、アトニのちがいについて」『光華女子大学研究紀要』第36号

工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテクスト』ひつじ書房

久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店

鈴木忍（1978）『教師用日本語教育ハンドブック3　文法I　助詞の諸問題1』凡人社

寺村秀夫（1983）「時間的限定の意味と文法的機能」『副用語の研究』渡辺実（編）明治書院（寺村（1992）に所収）

寺村秀夫（1992）『寺村秀夫論文集I―日本語文法編―』くろしお出版

仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房

益岡隆志（1995）「時の特定、時の設定」『複文の研究（上）』仁田義雄（編）くろしお出版

用例出典（『朝日新聞』以外）

フケン：「普賢」石川淳『芥川賞全集第一巻』／イツカキテキヲ：「いつか汽笛を鳴らして」畑山博『芥川賞全集第九巻』文藝春秋／サレド：「されどわれらが日々――」柴田翔『芥川賞全集第七巻』／カクショウ：「確証」小谷剛『芥川賞全集第四巻』／ユメノカベ：「夢の壁」加藤幸子『芥川賞全集第十三巻』／トクヤマ：「徳山道助の帰郷」柏原兵三『芥川賞全集第七巻』／プレオー：「プレオー8の夜明け」古山高麗男『芥川賞全集第八巻』／ブンガク：「文学賞殺人事件・大いなる助走」志村正浩・掛札昌裕・鈴木則文『'89年鑑代表シナリオ集』シナリオ作家協会編（映人社）／ヤマアイ：「やまあいの煙」重兼芳子『芥川賞全集第十二巻』／Aサイン：「Aサインデイズ」斎藤

博・崔洋一『'89年鑑代表シナリオ集』／さぶ：『さぶ』山本周五郎（新潮文庫）／ワルイナカマ：「悪い仲間」安岡章太郎『芥川賞全集第五巻』／ホンノハナシ：「本の話」由起しげ子『芥川賞全集第四巻』／ワレニ：「われに撃つ用意あり」丸内敏治『'90年鑑代表シナリオ集』／アマフネ：「海人舟」近藤啓太郎『芥川賞全集第五巻』／トウハン：「登攀」小尾十三『芥川賞全集第三巻』／セオイミズ：「背負い水」荻野アンナ『芥川賞全集第十五巻』／レクイエム：「れくいえむ」郷静子『芥川賞全集第九巻』／ショウネンノハシ：「少年の橋」後藤紀一『芥川賞全集第六巻』／ヒロバ：「広場の孤独」堀田善衛『芥川賞全集第四巻』／ムメイ：／クサノツルギ：「草の剣」野呂邦暢『芥川賞全集第十巻』／チイサナ：「小さな貴婦人」吉行理恵『芥川賞全集第十二巻』／ショウネン：「少年時代」山田太一（『'90年鑑代表シナリオ集』）／アサクサ：「あさくさの子供」長谷健『芥川賞全集第二巻』

付記：本稿を執筆するにあたり、三原健一先生と三宅知宏氏には、草稿を読んでいただき、貴重な意見・コメントを頂いた。記して感謝申し上げる。なお当然のことながら、本稿での誤りは筆者に帰せられるものである。

〈キーワード〉マエ節，マエニ節，発話時未実現，発話時既実現

On the Difference between *Mae* and *Maeni*

Takashi IWASAKI

The aim of this paper is to investigate the difference between *mae* and *maeni*. Through the survey of actual samples of *mae* and *maeni* sentences, we investigate the case in which *mae* is inappropriate and *maeni* should be chosen. As a result, we arrive at this conclusion: in case of *mae*, the event expressed in *mae* clause must be the one which has already completed at the time of speech, while the event denoted in *maeni* clause can be both what has already completed and what has not happened yet at the time of speech.